

古文 読解問題 「源氏物語 ～若紫・小柴垣のもと～」①

日もいとながきに^①つれづれなれば、夕暮れのいたう霞みアたるに紛れて、かの小柴垣^{モト}のもとに立ち出で給ふ。人々は帰し給ひて、惟光の朝臣とのぞき給へば、ただこの西面にしも、持仏据^ス奉りて行ふ、尼なりイケリ。簾少し上げて、花奉るめり。中の柱に寄り居て、脇息の上に経を置きて、^②いとなやましけに讀みおたる尼君、ただ人と見えず。四十余ばかりにて、いと白うあてに、やせたれど、面つきふくらかに、まみのほど、髪のうつくしげにそが^ウれたる末も、なかなか長きよりも。こよなういまめかしきものかなと、あはれに見給ふ。

清げなる大人二人ばかり、さては童べぞ出で入り遊ぶ。中に、十ばかりにあら^エむと見えて、白き衣、^③山吹などのなえたる着^ア、走り來たる女子、あまた見えつる子どもに似るオ^ベうもあらず、いみじく生ひ先見えてうつくしげなる容貌なり。髪は扇をひろげたるやうにゆらゆらとして、顔はいと赤くすりなして立てり。

「何事ぞや。童べと腹立ち給へるか。」とて、尼君の見上げたるに、少しおぼえたるところあれば、子なめりと見給ふ。「雀の子を大君が逃がしつる。伏籠のうちに籠めたりつるものを。」とて、いと口惜しと思へり。このゐたる大人、「例の心なしの、かかるわざをしてさいなまるること、いと心づきなけれ。いづ方へかまかりぬる。いとをかしう、やうやうなりつるものを。鳥などもこそ見つくれ。」とて立ちて行く。髪ゆるるかにいと長く、めやすき人なめり。少納言乳母とぞ人言ふめるは、この子の後ろ見なるべし。

尼君、「いで、あな幼や。言ふかひなうものし給ふかな。おのが、かく今日明日におぼゆる命をば、何とも思したらで、雀慕ひ給ふほどよ。^④罪得ることぞと、常に聞こゆるを心憂く。」とて、「こちや。」と言へば、ついゐたり。

面つきいとらうたげにて、眉のわたりうちけぶり、いはけなくかいやりたる額つき、髪さし、いみじううつくし。ねびゆかむさまゆかしき人かなど、目とまり給ふ。さるは、限りなう心を尽くし聞こゆる人に、いとよう似奉れるが、まもらるるなりけりと思ふにも涙ぞ落つる。

尼君、髪をかきなでつつ、「けづることをうるさがり給へど、をかしの御髪や。いとはかなうものし給ふこそ、あはれにうしろめたけれ。かばかりになれば、いとからぬもあるものを。故姫君は、十ばかりにて殿に後れ給ひしほど、いみじうものは思ひ知り給へりしづかし。ただ今、おのれ見捨て奉らば、いかで世におはせむとすらむ。」とて、いみじく泣くを見給ふも、すずろに悲し。幼心地にも、さすがにうちまもりて、伏し目になりてうつぶしたるに、こぼれかかりたる髪、つやつやとめでたう見ゆ。

^⑤生ひ立たむありかも知らぬ若草をおくらす露を消えむそらなき

またゐたる大人、「げに。」とうち泣きて、

初草の生ひゆく末も知らぬ間にいかでか露の消えむとすらむ

と聞こゆるほどに、僧都あなたより来て、「こなたはあらはにや侍らむ。今日しも、端におはしましけるかな。この上の聖の方に、源氏の中将の、わらはやみまじなひにものし給ひけるを、ただ今なむ聞きつけ侍る。いみじ

う忍び給ひければ、知り侍らで、ここに侍りながら、御とぶらひにもまうでざりける。」とのたまへば、「あないみじや。いとあやしきさまを人や見つらむ。」とて簾下ろしつ。「この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見奉り給はむや。世を捨てたる法師の心地にも、いみじう世の憂へ忘れ、齡伸ぶる人の御ありさまなり。いで、御消息聞こえむ。」とて立つ音すれば、帰り給ひぬ。

問一・次の「源氏物語」の説明の空欄ア～に入れる言葉を答えなさい。

源氏物語は（ a ）時代（ b ）に（ c ）によつて書かれた長編小説である。正・続編の（ d ）帖からなり、主人公（ e ）の誕生と栄華を描いた第一部、（ e ）の死後までを描いた第二部、（ e ）の死後の子孫の様子を描いた第三部に分けられる。

問二・傍線部ア～オの助動詞の意味と活用形を答えなさい。

問三・傍線部①「つれづれなれ」の意味として適切なものを次の中から選びなさい。

- ア. 心が落ち着かない様子
- イ. 何もすることがなく退屈な様子
- ウ. 人目をばかくらず泣く様子
- エ. 一人でいることを好む様子

問四・傍線部②「いとなやましげに読みゐたる」とあるが、なぜそのように経を読んだのか、最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア. 仏前での読経に慣れておらず、緊張してうまく声を出せなかつたため
- イ. 病に伏しており、体力も衰えている状態で読経を続けていたため
- ウ. 源氏の中将が覗いていることに気づき、気後れして読経に集中できなかつたため
- エ. 幼い姫君に読経の作法を教えながら、自らも静かに唱えていたため

問五・傍線部③「山吹などのなえたる着て」の「の」と同じ用法で使われているものを、選択肢から選びなさい。

- ア. 白き鳥の嘴と脚と赤き、鳴の大きさなる、水の上に遊びつつ、魚を食ふ。（伊勢物語）
- イ. 白玉か何ぞと人の問ひしき露と答へて消えなましものを（伊勢物語）
- ウ. 草の花は、なでしこ。唐のはさらなり、大和のもいとめでたし。（枕草子）
- エ. 酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり。（土佐日記）

問六・傍線部④「罪得ることぞと、常に聞こゆるを心憂ぐ」を現代語訳しなさい。

問七・傍線部⑤「生ひ立たむありかも知らぬ若草をおくらす露ぞ消えむそらなき」とあるが、「若草」と「霧」が誰を表しているか、文中から抜き出しなさい。

読解問題 「源氏物語 ～若紫・小柴垣のもと～」

① 解答・解説

問一 a 平安 b 中期 c 紫式部 d 五十四 e 光源氏

：源氏物語は平安時代に紫式部によって書かれた日本最古の長編物語で、全五十四帖からなる。

主人公光源氏は天皇である桐壺帝と桐壺の更衣から生まれるが、臣籍に降下し、様々な女性と恋愛を繰り広げる。光源氏没後の後半は、源氏の血を分けた薰と匂宮が主役となり、結末を迎える。

問二 ア 存続

イ 詠嘆

ウ 受身

エ 推量

オ 当然

問三 イ

問四 イ

問五 ア

問六 罰を受けることになりますといつも申し上げているのに、情けないこと

問七 若草…女子

霧…尼君